Java インストール手順書

第12版

(社)日本医師会

改訂履歴

初版	2004年1月23日	新規作成		
2版	2004年2月3日	「フォントの設定」を追加		
3版	2004年7月13日	「リソースファイルのダウンロード」を追加。		
		バージョン番号表記を変更		
4版	2005年11月21日	「リソースファイルのダウンロード」を修正。		
		ホームディレクトリ、ユーザ名の記述を修正。		
5版	2006年10月10日	全面改訂。		
6版	2007年12月13日	/usr/local ヘインストールする形態から、Debian パッケー		
		ジとしてインストールする形態へ移行。		
		対象 JDK バージョンを 1.5 Update9 へ。		
		aptline からのインストール、Etch 対応		
7版	2009年5月22日	Ubuntu Hardy対応		
8版	2010年8月25日	Ubuntu Lucid 対応		
9版	2012年1月26日	OpenJDK 移行		
10版	2012年10月12日	Ubuntu Precise 対応		
11版	2014年11月27日	Ubuntu Trusty 対応		
12版	2017年12月19日	Ubuntu Xenial 対応		

目次

<u>はじめに</u>	4
概要	4
 必要なもの	4
	4
OpenJDK について	5
	5
必要なパッケージのインストール	5
別バージョンの切り替え	7
動作確認	8
 アンインストール	8

はじめに

概要

本書は日医標準レセプトソフト(以下、日レセ)がインストールされているLinux にパッ ケージ版の Java をインストールする手順を記載したものです。

必要なもの

Java のインストールには、ネットワークに接続された、日レセが動作する Linux マシンが 必要です。 Java のインストール時に aptitude コマンドを使用したり、ファイルのダウンロードを 行ったりしますので、インターネット接続が可能な状態にしておいてください。

本書での表記方法

Java のインストール作業は主にスーパーユーザで行い、Ubuntu のターミナルでのコマンド入力が必要になります。 本書では以下のようにコマンド入力を枠の内側に表記します。

\$ sudo -i

[sudo] password for user:

ifconfig

eth0 リンク方法:イーサーネット ハードウェアアドレス **:**:**:**:**

inet アドレス:192.168.1.10 ブロードキャスト:192.168.255.255 マスク:255.255.128.0

(略)

exit

1行目の「\$ sudo -i」のように、行の頭に「\$」がある時は、一般ユーザ(ORCA ユーザなど)のコマンド入力を表します。

また、3行目の「# ifconfig」のように「#」が行の頭にある場合はスーパーユーザでの コマンド入力を表します。 他の行はコマンドに対する出力結果を表します。

「(略)」はコマンド出力の一部を省略してあることを表します。

OpenJDK について

新規インストール時は OpenJDK をインストールを推奨します。

インストール

必要なパッケージのインストール

以下のコマンドを実行し、パッケージをインストールします。

\$ sudo apt update

\$ sudo apt install default-jre

パッケージの依存関係により他のパッケージもインストールします。

パッケージリストを読み込んでいます... 完了 依存関係ツリーを作成しています 状態情報を読み取っています... 完了 以下の追加パッケージがインストールされます: default-jre-headless 提案パッケージ: default-java-plugin 以下のパッケージが新たにインストールされます: default-jre default-jre-headless アップグレード: 0 個、新規インストール: 2 個、削除: 0 個、保留: 0 個。 5,360 B のアーカイブを取得する必要があります。 この操作後に追加で 28.7kB のディスク容量が消費されます。 続行しますか? [Y/n] y

…(省略)

update-alternatives: /usr/bin/java (java) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/java を使います update-alternatives: /usr/bin/keytool (keytool) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/keytool を使います update-alternatives: /usr/bin/pack200 (pack200) を提供するために 自動モード で /usr/lib/ivm/iava-8-openidk-amd64/ire/bin/pack200 を使います update-alternatives: /usr/bin/rmid (rmid) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/rmid を使います update-alternatives: /usr/bin/rmiregistry (rmiregistry) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/rmiregistry を使います update-alternatives: /usr/bin/unpack200 (unpack200) を提供するために 自動モード で /usr/lib/ivm/iava-8-openidk-amd64/ire/bin/unpack200 を使います update-alternatives: /usr/bin/orbd (orbd) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/orbd を使います update-alternatives: /usr/bin/servertool (servertool) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/servertool を使います update-alternatives: /usr/bin/tnameserv (tnameserv) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/tnameserv を使います update-alternatives: /usr/bin/jexec (jexec) を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/lib/jexec を使います

…(省略)

default-jreインストール時に入る、openjdkはJavaの動作に必要なパッケージです。 * OSの種類によりインストールされるパッケージのバージョンが異なります すでにインストールされている分については省略してもかまいません。

以上でインストール終了です。

別バージョンの切り替え

システム上に複数の Java、Java 互換パッケージがある場合、update-alternatives コマン ドで切り替えることができます。

以下のコマンドを入力します。

\$ sudo update-alternatives --config java

この場合、OpenJDK-9が選択されています OpenJDK-8 に切り替えるには、'2'を入力して、 完了してください。

\$ sudo update-alternativesconfig java						
alternative java(/usr/bin/java を提供)には 2 個の選択肢があります。						
	度 状態					
0 /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/java * 1 /usr/lib/jvm/java-9-openjdk-amd64/jre/bin/java 2 /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/java	1071 1061 1071	自動モード 手動モード 手動モード				
現在の選択[*]を保持するには Enter、さもなければ選択肢の番号の	Dキーを押し	てください: 0				

OpenJDK が選択されます。

update-alternatives: /usr/bin/java(java)を提供するために 自動モード で /usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/jre/bin/java を使います

動作確認

以下のコマンドを実行し、出力が確認できれば正しくインストールされています。

\$ which java

/usr/bin/java

\$ java -version

java version "1.8.0_151" OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_151-8u151-b12-0ubuntu0.16.04.2-b12) OpenJDK 64-Bit Server VM (build 25.151-b12, mixed mode)

バージョンおよびビルド番号は異なる場合があります。

アンインストール

Java をアンインストールする手順は以下のとおりです。

Java パッケージを削除します。

\$ sudo apt remove openjdk-8-jre openjdk-8-jre-headless

以上でアンインストール終了です。